

東日本大震災から2年が経過しました。仙台塩釜港仙台港区高砂コンテナヤードには、毎日多くの貨物が往来しております。今回は先日開催しました仙台国際貿易港首都圏セミナーやコンテナ貨物取扱量等についてご紹介いたします。

仙台国際貿易港首都圏セミナー

大東建託株式会社 北米からの輸入航路を要望

平成25年2月6日東京都内にて仙台国際貿易港首都圏セミナーを開催し、約500名のお客様にご来場いただきました。

セミナーでは、復興需要として取扱量の増加が見込まれる住宅用資材を輸入している大東建託(株)購買部部長 小山久勝 様より「東北復興へ 物流&事業計画」と題して御講演いただきました。

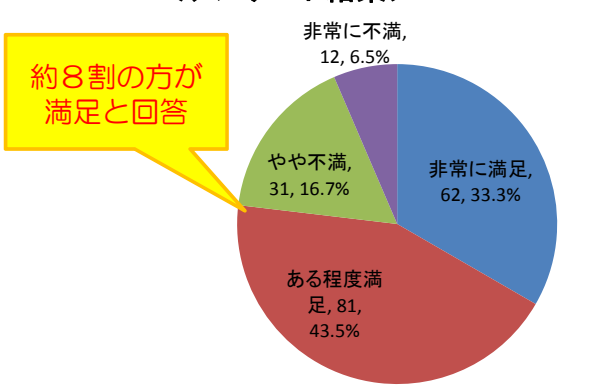
講演では、住宅用資材の輸入状況や今後の輸入計画についてご説明いただくとともに、カナダ・バンクーバー港からの輸入航路開設について要望いただきました。

また、主催者側からの講演として、宮城県土木部、塩竈港運送(株)、宮城県経済商工観光部産業立地推進課から、仙台塩釜港の現状やサービス、物流と関連の深い宮城県への企業立地状況についてPRしました。

参加者の意見（アンケートより抜粋）

- 物流の現状、将来展望が理解できた。（N社）
- 事業内容と具体的な輸入国、船社への要望が的確で非常に良かった（T社）
- 業界動向や事業計画を説明しながら、仙台のメインポート化の提案が非常に良かった。（I社）
- 港湾利用に関する点をもう少し詳しく説明してほしい。（H社）

<アンケート結果>



大東建託(株)購買部部長 小山久勝 様



宮城県土木部長



塩竈港運送(株)代表取締役社長



宮城県産業立地推進課長

震災前の80%まで回復 約173,000TEU

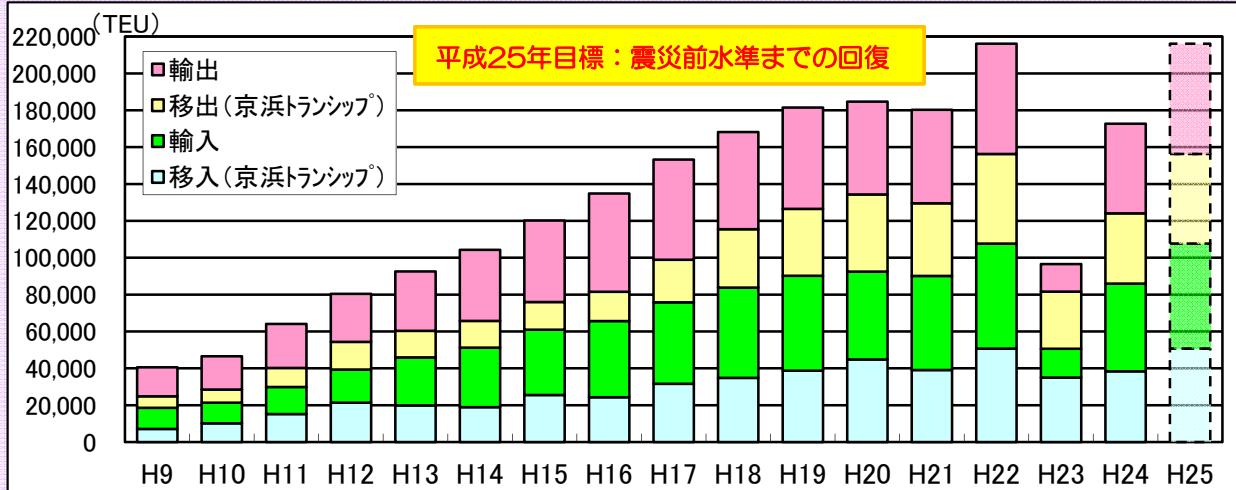
平成24年コンテナ貨物取扱量（速報）

平成24年コンテナ貨物取扱量は172,665.25TEU（速報）となり、震災前の約80%まで回復しました。

また、世界100か国300港以上の地域との輸出入実績となり、震災前の世界100か国280港を上回る実績となりました。

宮城県は平成25年に震災前水準まで回復することを目標とし、積極的にポートセールスを実施します。

年別コンテナ貨物取扱量



平成24年品種別構成(上位5品種)

※カッコ内数値は平成22年実績

	輸移出	取扱量(TEU)	輸移入	取扱量(TEU)
1	ゴム製品	29,293 (34,895)	製材	10,738.75 (8,391)
2	再利用資材	4,542 (6,418)	木製品	7,159 (5,684)
3	自動車部品	3,326 (4,514)	動植物性製造飼肥料	5,416 (4,829)
4	合成樹脂等	2,970 (2,671)	自動車部品	4,920 (3,613)
5	紙・パルプ	2,969 (17,793)	水産品	4,619 (4,642)

※小数点以下の数値は45フィートコンテナの取扱いによるものです。

45フィートコンテナシャーシ購入補助制度

宮城県内において実用化されている45フィートコンテナのさらなる利用拡大のため、45フィートコンテナ対応のシャーシ購入にかかる補助制度を実施します。詳しくは宮城県土木部港湾課までお問い合わせ下さい。

航路が改編されます

平成25年3月12日より南星海運の中国／韓国航路が改編されます。

【改編前】 仙台－釜山－蔚山－光陽－新港－大連－青島－光陽－釜山－新潟－苫小牧－釧路－八戸－仙台

【改編後】 仙台－八戸－釜山－蔚山－光陽－新港－大連－青島－木浦－釜山－新潟－苫小牧－釧路－仙台

<この記事に関するお問い合わせ>

宮城県土木部港湾課振興班 仙台市青葉区本町3-8-1

TEL: 022 (211) 3221 メール:kousin@pref.miyagi.jp

http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kouwan/

